

第1章 森林及び林業施策

令和4年度（以下「当年度」）は、「豊田市森づくり条例」の施行から15年目にあたるとともに、平成30年3月に策定した「新・豊田市100年の森づくり構想」（以下「新・森づくり構想」）及び同時に改正した「第3次森づくり基本計画」（以下「第3次計画」）に定める事業期間の5年目にあたります。

第3次計画では4つの重点プロジェクトと、そのほかの主要な施策7つを設定し、これら施策により公益的機能を重視した森づくりを実施しています。

I 重点プロジェクトの達成・実施状況

1 間伐推進プロジェクト

間伐面積については、各種間伐事業を積み上げた結果、880ha となりました。前年度の実績943ha と比較して63ha 減少し、目標達成率は73%でした。目標達成に至らなかった理由としては、伐採作業員の不足や道路沿いなど経費のかかる伐採が増加したことや間伐が進んだことにより間伐が必要な人工林が減少してきたことなどが挙げられます。

当年度は、地域森づくり会議が新たに1会議設立され、森づくり団地の樹立面積は1,108ha、累積では会議数が114、団地認定面積が15,443ha となりました。

〈間伐推進プロジェクトの達成状況（令和4年度）〉

指標	実績 (A)	目標 (B)	達成率 (A/B)
		上段：2022年度 下段：2027年度	上段：2022年度 下段：2027年度
間伐面積 (ha/年)	880	1,200	73%
		1,200	73%
森づくり団地認定面積 (ha/年)	1,108	1,200	92%
		見直し時に再設定	-
森づくり団地認定累積面積 (ha)	15,443	15,750	98%
		見直し時に再設定	-

注1 小数点以下は四捨五入

① 間伐推進計画

本プロジェクトは、森づくり構想の軸となる事業で、地域森づくり会議方式の団地化をはじめ各種施策を総合的に利用して間伐を推進していくものです。平成30年度からは第3次計画に基づく間伐推進プロジェクトのもと、間伐推進計画を見直し、年間1,200ha の間伐を安定的に実施する目標に改めました。また、事業別に間伐実施面積の目標を設け、実行管理を行っています。

なお、公有林（市有林・県有林）及び愛知県の分取林等の間伐は、計画対象外としています。今後も、間伐の事業地である地域森づくり会議の団地化を促進し、人工林の健全化のため間伐により過密人工林の一掃を図ります。

〈事業別の間伐実施面積（令和4年度）〉

（単位：ha）

作業種	保安林 本数 調整伐	あいち森と 緑づくり	間伐促進事業等			矢作川 水源基金 水源林対策	水源環境 保全林 整備	水道水源 特別区域 森づくり	計
			市単独	水道 水源	国県 補助				
切置き	34.09	372.44	90.79	94.35	－	16.46	54.69	23.45	686.27
利用	－	－	－	－	165.46	27.89	－	－	193.35
合計	34.09	372.44	90.79	94.35	165.46	44.35	54.69	23.45	879.62

注1 年度別の値は付表1参照

2 市間伐補助事業の詳細は付表2参照

ア 豊田市予算に関わる間伐事業の実績

（公財）矢作川水源基金が実施する間伐補助事業に対する補助金の上乗せや水源環境保全林整備事業などによる間伐を実施しました。

〈豊田市間伐事業 事業別内訳（令和4年度）〉

（単位：ha・千円）

事業名		事業量	事業費	財源内訳			
				国・県 補助金	市費	矢作川 水源基金	所有者 負担金
間伐 促進	市単独	90.79	46,100	－	45,952	－	148
	水道水源	94.35	40,248	－	39,994	－	254
	国県補助（市上乗せ）	－	－	－	－	－	－
矢作川水源基金水源林対策		44.35	26,039	－	2,780	14,131	9,129
水源環境保全林整備		54.69	24,299	－	24,299	－	－
水道水源特別区域森づくり		23.45	14,761	－	14,761	－	－
合計		307.63	151,447	－	127,785	14,131	9,531

② 提案型集約化施策による間伐事業地の確保

ア 地域森づくり会議方式による団地化の推進

市と豊田森林組合で組織した「団地間伐促進チーム」や、市が人件費を補助している「森づくり団地化推進員」（緑のコーディネーター）が推進力となり、年間で約1,100haの団地化ができています。今後は、年間認定面積を保ちつつ効率的に間伐の実施につなげることが重要となっています。特に、当初に団地認定した人工林の2回目の間伐が必要になってきており、新規事業地と並行して間伐を計画的に進めていく必要があります（付表3、付表4参照）。

〈令和4年度に設立された地域森づくり会議〉

（単位：人）

地区	名称	構成員数	設立年月日	会議の区域
旭	伯母沢地域森づくり会議	40	R4.4.1	伯母沢町

〈令和4年度に認定された団地〉

（単位：団地・ha）

項目	豊田	小原・藤岡	足助	下山	旭	稲武	計
団地数	0	4	8	12	9	12	45
面積	－	62.23	221.86	332.12	180.42	311.20	1,107.83

イ あいち森と緑づくり森林整備事業（人工林）等の候補地とりまとめ業務

愛知県から間伐事業の候補地とりまとめ業務の委託を受け、「あいち森と緑づくり森林整備事業（人工林）」では382ha、「保安林本数調整伐事業」では20ha をとりまとめました。なお、これら候補地は、地域森づくり会議方式によりとりまとめられたものの一部としています（付表5参照）。

ウ 水道水源特別区域森づくり事業候補地とりまとめ業務

森林の境界を調査せず、一定地域の所有者全員から間伐の同意を得る「一括化」を、牛地町下夕手裏、大道及び中介木において実施しました。なお、所有者の一部から同意を得られなかったため、その箇所を除外して間伐する手続きを進めています。

エ 森林経営計画認定状況

団地化した箇所の一部、及び県有林等の一部の施業計画1,192ha を森林経営計画として新たに認定しました（付表6参照）。

③ ゾーニングの実施と将来像（目標林型）を目指した施業

地域森づくり会議方式の中で、団地化した人工林を「木材生産林」と「針広混交誘導林」の2区分にゾーニングするとともに、各区分について、それぞれ2つの目標林型（目標とする森の姿）を設定し、その目標林型を目指して将来木施業を行うことを計画していましたが、いずれも計画通りには実行できていません。今後はこれらの問題を解消すべく、第4次豊田市森づくり基本計画の中で、ゾーニングと目標林型の再設定を検討していきます。

2 森林保全推進プロジェクト

皆伐や林業用路網開設等は、森林環境を大幅に変え、森林土壌に大きなダメージを与える行為です。市ではこれらの影響を最小限に抑えるため、平成30年度に「豊田市森林保全ガイドライン」（以下「ガイドライン」）を策定し、これに沿った指導を行っています。

① ガイドラインの運用状況

ガイドラインに基づいた指導は、「伐採及び伐採後の造林の届出書」が提出された際や届出前の相談があった際に行っています。また必要に応じて、業者と現地を確認し、傾斜35度以上の急傾斜地の有無、0次谷の有無、河畔林の保護、皆伐上限面積（5ha）の超過などを確認しています。当年度は計23件（約18ha）の現地確認を行いました。

（ガイドライン現地確認実績（令和4年度））

作業種	面積区分	件数	合計面積(ha)
皆伐	5ha 以上	0	0.00
	3ha 以上 5ha 未満	2	6.70
	1ha 以上 3ha 未満	3	5.78
	1ha 未満	18	5.67
合計		23	18.15

3 地域材の生産・流通・利用推進プロジェクト

地域材の利用促進には、木材生産を低コストで行うことや立地に応じた作業システムで森林保全に配慮すること、川上（山元）から川中（製材所等）、川下（消費者）に至る一連の流れの円滑化を図ることが重要です。当年度は木材生産量の拡大や新たな作業システムの導入に向けて、各施策に取り組みました。その結果、伐採搬出コストは13,173円/m³で、前年度実績12,331円/m³と比較して、842円の増加となりました。また、間伐に伴う素材生産量は30,836m³で、前年度実績30,581m³と比較し、255m³の増加となりました。さらに、中核製材工場における原木取扱量は40,970m³で、前年度実績43,764m³と比較し、2,794m³の減少となりました。

〈地域材の生産・流通・利用推進プロジェクトの達成状況（令和4年度）〉

指標	実績 (A)	目標 (B)	
		上段：2022年度 下段：2027年度	達成率 (A/B) 上段：2022年度 下段：2027年度
伐採搬出コスト (円/m ³)	13,173	10,000	0%
		8,000	0%
間伐に伴う素材生産量 (m ³)	30,836	25,000	123%
		30,000	103%
中核製材工場における原木取扱量 (m ³)	40,970	45,000	91%
		45,000	91%

注1 伐採・搬出コストは、伐採・集材・造材・搬出（土場）までにかかるトータル経費（消費税込み）のこととした。

2 伐採搬出コストの達成率については、（基準年のコスト - 実績）÷（基準年のコスト - 目標）。基準年のコストは第3次計画樹立時（2016年度）の11,000円/m³とした。

3 達成率は0から100%の範囲とし、計算上マイナスとなる場合は0とした。

① 豊田型作業システムの確立

急傾斜地における作業システムとして、タワーヤードの運用方法等を検討するため、飛騨市森林組合を視察しました。

また、高性能林業機械の新規購入費用、リース費用、さらにレンタル費用について市が助成しています。

〈高性能林業機械の各種補助事業（令和4年度）〉

（単位：千円）

事業名	内容	補助金額	対象機種	林業事業体
高性能林業機械導入事業	新規購入	13,200	プロセッサ 1台	西垣林業フォレスト（株）
			フォワーダ 1台	
			スイングヤード 1台	
高性能林業機械施業促進事業	リース	1,992	プロセッサ 2台 フォワーダ 1台	豊田森林組合
	レンタル	630	-	豊田森林組合

注1 年度別の値は付表7,8参照。

② オペレーターの育成

豊田森林組合の森林作業員とともに、①においてタワーヤードの運用方法について視察しました。

③ 林業用路網の整備

ア 林道等整備事業

効率的な木材運搬及び地域の林業振興のため、林道を413m 開設しました。なおこれは、田平沢平瀬線（下山地区）における愛知県の代行施工によるものです。（付表12参照）。

イ 作業道整備事業

平成20年度から始まった市の間伐材搬出路網（作業道）開設事業により、豊田森林組合が作業道2路線を開設しました（付表13参照）。また、（公財）矢作川水源基金の補助事業により、豊田森林組合が作業道2路線を開設しました（付表14参照）。

ウ 搬出路整備事業

平成20年度から始まった市の補助事業により、私有林で豊田森林組合が開設した搬出路開設の実績として、豊田森林組合施工が34,005m（付表15参照）、自力施工が3,990m（付表16参照）、全体で37,995mの搬出路を整備しました。

エ 林業用路網の開設実績

第3次計画に基づき利用間伐を推進するために、簡易な林業用路網である作業道及び搬出路を重点的に整備した結果、当年度の総開設延長は41.4km となりました（付表17参照）。

〈林業用路網の開設延長（令和4年度）〉

（単位：km）

林道	林業専用道	作業道				搬出路			合計
		単市作業道	水源基金	あいち森と緑づくり事業	計	私有林	市有林	計	
0.41	－	1.16	1.78	－	2.94	38.00	－	38.00	41.35

④ 林業用路網の維持管理

効率的な木材運搬及び安全な林道利用のため、愛知県の補助事業制度を活用し、林道の改良及び舗装整備に取り組み、改良事業は6路線853m、舗装事業は5路線3,469m となりました（付表18～20参照）。

⑤ 地域材の利用拡大の推進

地域材のコーディネート組織である（一社）ウッディーラー豊田は、指定管理を担う豊田市森林会館を拠点としています。会員企業等と連携しながら、地域材を活用した商品開発、木材等に関わる勉強会やツアーの実施等により、地域材の新たな流通確保及び需要拡大を促進しました。

〈（一社）ウッディーラー豊田の構成員（令和4年度）〉

役員	代表理事	樋口 真明
	理事	鈴木 禎一（八幡製材） 伊藤 秀和（西垣林業株） 川合 寿人（豊田森林組合） 水嶋 淳（水嶋建設株） 湯川 修平（ハチカグ株） 杉本 憲彦（豊田市産業部農林振興室森林課）
	監事	山崎 真理子（名古屋大学）
会員	110者	（法人会員・個人会員）

ア 森林ツアーや講座の開催

（一社）ウッディーラー豊田と締結した「地域材利用促進の事業に関する協定」によって、あらゆる業態の企業からの地域材の利用に関する相談に対して、木材の知識を活用した勉強会・ツアーを実施することで、豊田市の森林の現状や課題を肌で感じてもらいながら地域材利用のコーディネートを実施しました。

イ 地域材活用に関する PR につながるイベント出展

地域材が市内で常態的に利活用され、木の良さや木材利用への関心が高まるように、地域材製品の開発、木育活動等を通して、（一社）ウッディーラー豊田を始めとした地域の木材関係者と共働により、市民が木に触れあう機会の創出を図っており、次のとおり各種事業を実施しました。

〈（一社）ウッディーラー豊田と連携して参加・出展したイベント（令和4年度）〉

イベント名	開催日	会場	活動内容
あいち木づくりフェスタ	4月29日	愛知県森林公園	ワークショップ
働き方改革 EXPO2022	5月13日、14日	東京ビッグサイト	製品展示
とよた女性建築士展	6月2日、3日	スカイホール豊田	パネル展示
My 下駄づくり	6月26日	豊田市森林会館	ワークショップ
MOCTION 企画展 vol.29 ～ものづくりと森づくりのまち豊田から～	7月7日～ 7月19日	国産木材の魅力発信 拠点 MOCTION	製品・パネル展示
アロマフレグランスづくり	8月13日、14日	豊田市森林会館	ワークショップ
時計づくり	8月13日、14日	豊田市森林会館	ワークショップ
シロフォンづくり	8月13日、14日	豊田市森林会館	ワークショップ
「木製プレートづくり」と 「フードスタイリング体験」	9月10日	T-FACE	ワークショップ
第7回オーガニックライフスタイル EXPO2022	9月16日～ 9月18日	東京都立産業 貿易センター	製品展示
ジビエマルシェ	10月23日	鞍ヶ池公園	ワークショップ、製品展示・販売
とよたビジネスフェア	3月2日、3日	スカイホール豊田	製品・パネル展示

ウ 豊田市テナント店舗等木質化モデル創出事業補助金

市内のテナント店舗等で地域材を活用して木質化をするものに対して経費の一部を補助し、市が積極的に情報発信することにより、地域材の活用促進と市民への見える化を図りました。当年度は、11店舗に補助を行うとともに、商工会議所へのPRや報道発表等によって幅広く情報発信をしました。

〈補助金支出店舗一覧（令和4年度）〉

店名	所在地	業態	使用箇所
サンサン Café	則定町	カフェ	看板
MEN'S TERAS	御幸本町	エステサロン	壁面装飾、造作家具、ルーバー等
Laughing Company	若宮町	アウトドア用品店	内装、商品棚用装飾柱
T-Marche	若宮町	食品販売店	内装装飾材
MATSURIBA	前田町	住宅展示場	ウッドデッキ
はなもみじ GIRO.	足助町	飲食店	テント小屋
タダノイツキ	山中町	ドッグカフェ	床、壁、看板、家具
BOULE DE RIZ	広路町	おにぎりカフェ	床、壁、柱、梁、家具
はなもみじ GIRO.はなれ	足助町	飲食店	内装
Dolce Vita	西町	レストラン	内装
トヨタ中央自動車学校	三軒町	自動車学校	受付カウンター



〈MEN'S TERAS〉



〈Laughing Company〉

⑥ 公共建築物等における地域材の利用

平成24年度から「豊田市公共建築物等の木材利用の促進に関する基本方針」を策定し、公共建築物を始めとする市内の建築物や、公共土木工事等における地域材の利用を促進することによって、やすらぎと温もりのある快適な公共空間を市民に提供するとともに、一般建築物等への木材の需要拡大を図っています（付表21、付表22参照）。

4 森づくり人材育成プロジェクト

新・森づくり構想の実現の担い手となるプロフェッショナルな林業技術者の育成として、森林施業プランナーの技術育成のための「森づくり人材育成研修」を平成30年度より開始しました。

また、森づくりの直接的な担い手となる森林作業員の育成のため、令和2年度から豊田森林組合の新規採用者を林業大学校等へ就学させる取組を始め、当年度は新たに3人が林業大学校等で学んでいます。

このほか、林業に必要な基本的技術の習得を目的とする「緑の雇用」の新規研修生2人を受け入れました。

〈森づくり人材育成の育成状況（令和4年度）〉

（単位：人）

指標	実績（A）	目標（B）	達成率（A/B）
新規採用職員育成支援事業研修生	6	6	100%
「緑の雇用」新規研修生	2	3	67%

① 森林作業員基礎技術研修

当年度から、森林作業員現場の安全性の向上を図り、作業員の定着につなげることを目的とした「森林作業員基礎技術研修」を実施しました。具体的には、若手の森林作業員に対して、チェーンソーの目立て等の基礎から実際の伐倒演習等の実技と、森林作業員として必要な知識を身につけるための座学を繰り返し行い、基礎技術の習得を目指すものであり、計13回/年実施しました。

② 森づくり人材の確保等

ア 「緑の雇用」事業等の活用

「緑の雇用」事業は全国森林組合連合会からの委託を受けて、（公財）愛知県林業振興基金が研修等の実施と取りまとめを行っています。なお、豊田森林組合は、平成15年度より積極的に本事業を活用しており、現在までに116人の研修生を受け入れ、40人が現在も作業班や組合職員として活躍しています。また、平成29年度からは「緑の雇用」を補完する「新規就業者育成推進事業補助金」を設け、安定的な研修生の確保や定着率を向上させる支援に取り組んでいます（付表23参照）。

イ 新規就業者育成支援

「新規就業者育成推進事業補助金」においては、令和2年度から実施している「新規採用者育成支援事業」により、当年度も新たに3人が豊田森林組合に就職しました。市は、豊田森林組合の

新規採用者の林業大学校等への就学に要する経費の一部を補助しており、豊田市における林業従事者の育成を支援しています。

ウ 森づくり団地化推進員

森づくりの団地化を推進する人材を育成するとともに、地域の雇用創出を目的として、平成21年度から豊田森林組合が臨時的に雇用する「森づくり団地化推進員」（緑のコーディネーター）に対して人件費の一部を補助しており、当年度は10人分の補助をしました（付表24参照）。

エ 市における専門職員の配置

森林・林業に関する専門教育を受けた職員は、3人在籍しています。

その他に森林総合監理士（フォレスター）に登録された職員が1人在籍しています。

II そのほかの主要な施策の実施状況

1 森林情報の管理に関する施策

① 豊田市森林 GIS 保守・運用業務

森林課独自のGISについて、基本データである森林計画図、森林簿、市地番図及びオルソ画像等を最新のデータに更新しました。また、新規又は変更のあった地域森づくり会議や森づくり団地、水道水源特別区域森づくり事業地及び林地台帳を整備しました（付表25参照）。

2 森林環境教育に関する施策

① とよた森林学校の実績

講座の企画及び運営は、豊田森林組合と（一社）おいでん・さんそんへの委託、おいでん・さんそんとよた森林学校運営委員会への補助事業によって実施しました。当年度は、人材育成コースとして3講座延べ10回（付表26参照）、森の応援団コースとして5講座延べ11回（付表27参照）の合計8講座延べ21回と、間伐ボランティア初級講座の受講者を対象にしたフォローアップ研修を3回開催しました。

これまでに間伐ボランティア初級講座の修了生で構成されるボランティア団体が毎年1団体ずつ組織されるなど、豊田市内での活動が広がっています。

〈講座概要（令和4年度）〉

人材育成コース

（単位：回・人）

講座名	回数	参加者数
森林観察リーダー入門講座	5	11
間伐ボランティア初級講座	3	18
多様な間伐手法を学ぼう！	2	14
合計	10	43

森の応援団コース

（単位：回・人）

講座名	回数	参加者数
森林入門セミナー	3	25
森林と災害～豪雨災害をわすれない～	2	14
楽しい森林ウォーキング	2	10
夏休み昆虫観察会	2	13
地域の森・健康診断	2	19
合計	11	81

フォローアップ講座

（単位：回・人）

講座名	回数	参加者数
間伐ボランティア フォローアップ講座	3	14
合計	3	14

② 出前講座の開催

当年度は、申込みのあった20団体に対し、延べ31回の出前講座を開催しました（付表28参照）。都市部の小学校を対象にした講座では、森林課職員と樹木医の共働により、より効果的な授業の展開を図りました。

〈出前講座の開催概要（令和4年度）〉

（単位：団体・回・人）

申込み 団体数	年間延べ 開催数	延べ 参加者数	内 容 等
19	31	953	森林の働き、間伐の効果や自然観察などの基礎講座

③ とよたモリジヤムの実績

当年度から森で楽しみたい・癒されたい人向けのプログラム「とよたモリジヤム」を新たに開設しました。当年度は、講座の運営を豊田森林組合に委託し、6講座6回を実施しました。

〈講座概要（令和4年度）〉

（単位：回・人）

講座名	参加者数
リラックスヨガ&ウオーク	12
アロマメイキング	17
昆虫食の世界	21
木製マイスプーン作り	11
どんぐり探検隊！	2
山を持ったら知っておきたいこと5選	10
合計	73

④ 森林環境教育活動に対する支援制度

ア 豊田市・森の総合サイト「Tomori」の使用

令和3年度に開設した豊田市・森の総合サイト「Tomori」で、森林環境教育の講座等を主催する団体や個人に、実施講座や会報誌等のサイト掲載を支援しました。当年度は、10団体が講座のサイト使用を申請し、30講座を掲載しました。また、2団体の会報誌等を掲載しました。



Tomori QR コード

イ 森林環境教育活動事業補助金

令和4年度から、新たに森林環境教育の講座等を主催する団体への補助をはじめました。当年度は、2団体に交付しました。

⑤ とよた森づくりの日ととよた森づくり月間における普及啓発活動

市は、豊田市森づくり条例第16条第2項において10月26日を「とよた森づくりの日」、10月を「とよた森づくり月間」と決めました。森づくりに関する普及啓発は、とよた森林学校や日常の活動等でも行っていますが、この期間に次の取組を行いました。

ア 耕 Life SDGs マルシェでの出展

10月1日に、とよたエコフルタウンにて開催された耕 Life SDGs マルシェにブース出展し、豊田市の木でつくられた鉛筆を活用したワークショップ「世界に1つのえんぴつをつくろう！」を実施しました。

イ 自然観察の森マルシェでの展示

10月8日に、豊田市自然観察の森にて開催された自然観察の森マルシェにブース出展し、豊田市の森づくりに関する展示を実施しました。

ウ ジビエマルシェでの出展

10月23日に、鞍ヶ池公園にて開催されたジビエマルシェにブース出展し、森林に関するクイズを実施しました。

エ ふじおか防災キャンプでの展示

10月29日に、藤岡体育センターにて開催されたふじおか防災キャンプにブース出展し、豊田市の森づくりに関する展示を実施しました。

⑥ その他森林普及事業の拡大に向けた施策

森林普及の柱となる、とよた森林学校およびとよたモリジャムや出前講座を実施したほか、更なる森林環境教育の普及のため、以下のことを行いました。

ア 森林普及動画の公開

子どもたちに森の楽しさや美しさ、森林整備の大切さなどを伝えるために、四季の移り変わりや森に携わる人達を紹介した動画「きっと行きたくなる 豊田市の森」を市公式YouTubeチャンネルで公開しました。



動画 QRコード

イ イベント出展・パネル等の展示

当年度は以下のとおりイベント出展・パネル等の展示を行いました。

〈出店・展示一覧（令和4年度）〉

イベント名	日時	内容	場所
エコット期間展示 「森と川とわたしたちの暮らしのつながり」	7月30日～ 9月19日	パネルやクイズ、木製品の展示。森林課から事前に説明を受けたインタープリターによる来訪者への説明。	豊田市環境 学習施設 エコット
おぼら防災 DAY 「豊田市の森づくりの紹介」	9月18日	森林の持つ公益的機能（防災）に関するパネル展示や豊田市・森の総合サイト「Tomori」の紹介。	小原交流館
とよたで学ぼうさい！ 「森林と防災クイズに挑戦しよう！」	2月4日	森林と防災に関するクイズブースの出展、森の大切さや木材利用促進を伝えるパネル展示。	スカイホール 豊田

3 森林ボランティア等と共働による森づくりに関する施策

豊田市では、森林ボランティアや NPO、企業などと連携を深めて、共働による森づくりを推進しています。

① 森林ボランティア活動の支援

豊田市を中心とした矢作川流域は、人工林での活動を主とした森林ボランティアの活動が盛んな地域です。今後は、とよた森林学校の修了生などから構成されたボランティア団体が新たに結成され、市内の活動が活発化していくことも期待されます。森林ボランティアが自立の精神を持って活動できるように以下の支援を行いました。

ア 森林ボランティア始動支援事業

活動を始めるに当たっては、いろいろな活動用具などをそろえることが必要となります。平成17年度より、そうした状況の団体に対して、初動の2年間に限り、資金を補助しています。当年度は2団体（構成員数23人）に補助しました（付表29参照）。

イ 森林ボランティア安全対策事業

活動に伴う傷害保険の加入を促進するため、平成18年度よりボランティア保険料を補助しています。当年度は15団体（構成員数218人）に補助しました（付表30参照）。

ウ 実習地としての市有林の提供

ボランティア団体の自主的な森林整備活動を促進するため、市有林を活動フィールドとして提供しています。当年度は2つのボランティア団体と協定を結んだ上で、それぞれに大洞市有林と保全区域緑地（宮前町）を提供しました。

② 企業・団体の森づくり活動に対する支援

ア 企業等と共働した森づくり

当年度は企業の社会貢献活動における森林整備活動のフィールドとして、木瀬市有林を提供しました。また、4つの企業に対し、出前講座を計10回実施しました。

4 事業評価に関する施策

間伐効果の検証及び効果的な間伐手法の検討のため、各種モニタリングを実施しています。

① モニタリング

ア 間伐モニタリング調査

市は公益的機能の発揮される森づくりを目指して、間伐を推進していますが、間伐率や間伐手法の違いが下層植生や樹木の成長プロセスに与える影響についてのデータは乏しく、経験的推論の域を出ません。そのため、平成20～22年度に75か所の調査地を設定し、それ以降、植生調査と林分調査を実施しています。

その15年目にあたる当年度は、平成22年度に設定した第3グループの25か所で調査を実施しました。3年前の調査データと比較すると、下層植生の植被率は概ね横ばいの結果となりました。これは、間伐してからの時間の経過によって林冠閉鎖が進んだ結果と考えられます。

〈間伐モニタリング調査計画表〉

設定年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
H20 (第1グループ)	○ 伐採前			○ 1回目			○ 2回目			○ 3回目			○ 4回目		
H21 (第2グループ)		○ 伐採前			○ 1回目			○ 2回目			○ 3回目			○ 4回目	
H22 (第3グループ)			○ 伐採前			○ 1回目			○ 2回目			○ 3回目			○ 4回目

〈間伐モニタリング調査地の設置状況〉

(単位：箇所)

設定年度	間伐								皆伐		対照区(放置)			計
	切置き					巻枯らし		列状	小面積	その他	人工林	天然林	その他	
	20%	30% 33%	40%	50%	60% 70%	40%	55% 66%	2 残 1 伐						
H20 (第1グループ)	2	2	7	2	2	5	1	2	-	-	2	-	-	25
H21 (第1グループ)	2	3	3	3	-	1	2	3	-	2	4	1	1	25
H22 (第1グループ)	1	3	6	-	1	1	-	-	1	4	6	2	-	25
合計	5	8	16	5	3	7	3	5	1	6	12	3	1	75

イ 間伐モニタリング見直し検討会の開催

当年度は間伐モニタリングの開始から15年目にあたります。そこで、当年度は本事業の中間評価が必要な時期であると捉え、有識者を招いた見直し検討会を開催しました。検討会では主に以下のことが決定しました。

- ・針広混交林化は難しいが引き続きモニタリングをしていくこと
- ・人工林整備の当面の目標値として、1000本/ha が妥当であること
- ・本事業では適正な間伐率の検証は難しいこと
- ・シカによる更新阻害の調査をしていくこと
- ・各調査地に目標林型を設定し、それに向けた誘導手法を検証していくこと

〈間伐モニタリング見直し検討会の概要(令和4年度)〉

日時	令和5年2月24日 13:30~16:30
会場	豊田市役所東庁舎7階 大会議室3
出席者	横井 秀一(造林技術研究所) 正木 隆(森林総合研究所) 北岡 明彦(元森林課職員)
事務局	小栗 一高・西垣 直人(㈱名邦テクノ) 杉本 憲彦・小山 剛・柴田 亮介(森林課)

ウ 水源かん養機能モニタリング

洪水や渇水など、水をめぐる問題は市にとって最重要課題の一つであり、この解決のために森林の果たす役割が注目されています。一方で、間伐や皆伐などの施業が森林の水の動きにどの程度の影響を与えるかについては十分に解明されていません。そこで市は、市内に試験地を設置し、東京大学大学院農学生命科学研究科と協力して、間伐前後の水量や水質の変化を把握する調査を平成27年度から開始しました。

当年度は御内市有林内の調査地で皆伐と利用間伐を実施しました。また、例年と同様に、各種観測や砂出し作業などを行いました。

〈研究概要〉

調査地	試験流域	調査開始年度	伐採年度	観測項目	
大洞市有林	切置き間伐流域 対照流域	(A-1) (A-2)	平成27年度	平成30年度～ 令和2年度	①気象、②流量、③樹冠遮断量、④表面流出量、⑤土砂流出量、⑥水質
御内市有林	皆伐流域 利用間伐流域 皆伐流域 対照流域	(M-1) (M-2) (M-3) (M-4)	平成28年度	令和4年度	①気象、②流量、③土砂流出量、④水質



〈樹幹流量の観測〉



〈土砂流出量計測のための砂出し作業〉

5 その他の施策

① 「豊田市 市有林ゾーニング・活用計画」の策定

当市における市有林は市内各所に分散しており、その合計は66か所で約1,300haになります。こうした立地や林相が多様な市有林を今後適切に有効活用していくため、当年度に「豊田市 市有林ゾーニング・活用計画」を策定しました。これにより、市有林の利用ニーズに対する適地が明らかになるとともに、長期的な森林整備計画の作成に繋げることができます。

② 豊田市の森づくり成果報告会の開催

3月15日に「豊田市の森づくり成果報告会」を開催しました。当市の森づくりにおける取組みを庁内外に発信し関係機関との意見交換を行い、森林・林業施策の理解を促進し森林行政のさらなる発展に寄与しました。

③ 森林環境譲与税を活用した取組

森林整備の推進を図るため、令和元年度から以下の取組に森林環境譲与税を活用しました。

〈森林環境譲与税を活用した取組（令和4年度）〉

（単位：円）

活用区分	事業名	内容	実績	事業費	うち森林環境譲与税充当額
森林整備	水源環境保全林整備事業	個人所有の人工林（水源環境保全林）の切置き間伐	間伐面積 54.69ha	26,797,821	26,797,821
	間伐促進事業	個人所有の人工林の切置き間伐等に対する補助	間伐面積 90.79ha	45,952,000	45,952,000
	森づくり推進組織育成事業	個人所有の人工林を間伐するためにとりまとめを行う（森づくり団地化）組織に対する交付金	団地認定面積 1,107.83ha	22,156,600	22,156,600
	モニタリング調査事業	間伐効果の検証や効果的な間伐手法を検討するための調査の実施	25か所	5,351,500	5,351,500
人材育成	森づくり担い手育成支援事業	森林の境界確認や測量を行う森づくり団地化推進員の雇用等に対する補助	森づくり団地化推進員 10人	24,593,000	19,586,079
	新規就業者育成推進事業	豊田森林組合の森林作業員の新規採用と育成に対する補助	新規就業者 6人	18,259,000	17,659,000
	人材育成事業	豊田森林組合が実施する森林作業員の基礎技術研修に対する負担金	森林作業員4人に対し 計13回開催	2,000,000	2,000,000
木材利用	テナント店舗等木質化モデル創出事業	地域材を活用した店舗等の木質化に対する補助	11件	16,421,000	16,421,000
	管理備品整備事業（小学校）	小学校における地域材の机・椅子の導入	机 1,062台 椅子 1,307脚	18,590,825	6,150,000
	管理備品整備事業（中学校）	中学校における地域材の机・椅子の導入	机 493台 椅子 294脚	6,446,715	1,850,000
合計				186,568,461	163,924,000

III 森づくりの構想及び基本計画等に関する業務

1 「とよた森づくり委員会」の開催

とよた森づくり委員会（以下「森づくり委員会」）は、森づくり構想や森づくり基本計画等について協議するため、平成17年度に発足し、平成19年度には豊田市森づくり条例に位置づけられました。森づくり委員会での協議事項の詳細については、市のホームページで公表しています。

〈森づくり委員会委員（14人）/オブザーバー（2人） 〔任期：令和3年7月17日～令和5年7月16日〕〉

役職	氏名	所属等
委員	赤堀 楠雄	林材ライター
	臼田 寿生	岐阜県森林研究所 森林資源部 専門研究員
	岡本 透	(国研) 森林総合研究所 関西支所 グループ長
	片桐 正博	豊田森林組合 代表理事組合長
	國友 淳子	トヨタ自動車(株) 社会貢献推進部 共生社会推進室
	鈴木 辰吉	(一社) おいでん・さんそん 顧問理事
	鈴木 禎一	八幡製材
	鈴木 政雄	地域森づくり会議森林所有者・専業林家
	新津 裕	岐阜県立森林文化アカデミー 講師
	西垣 貴文	西垣林業(株) 取締役副社長
	樋口 真明	(一社) ウッディーラー豊田 代表理事
	藤富 勝行	公募委員
	水嶋 淳	水嶋建設(株) 代表取締役社長
	横井 秀一	造林技術研究所 代表
オブザーバー	大村 宏	愛知県豊田加茂農林水産事務所 林務課長
	川合 寿人	豊田森林組合 参事

注 所属は令和5年3月31日現在

〈森づくり委員会の開催状況（令和4年度）〉

開催日	場所	協議事項
7月8日	市役所南庁舎5階 南52会議室	<ul style="list-style-type: none"> 会長・副会長の選出 「森づくり構想の成り立ちと森づくりの今後について」 講師：東京大学大学院 蔵治光一郎 教授 第4次豊田市森づくり基本計画の取組方針について
11月2日	市役所南庁舎5階 南52会議室	<ul style="list-style-type: none"> 「第4次豊田市森づくり基本計画策定に関する事項」について
1月19日	市役所南庁舎5階 南52会議室	<ul style="list-style-type: none"> 「第4次豊田市森づくり基本計画策定（案）」について 今後の基本計画の進め方について